



住んでいるだけで**健康**で**幸せ**になれる
健幸都市の実現

モデル事業名：
「歩いて暮らせるまちづくり」
ウォーカブルシティの深化と定着

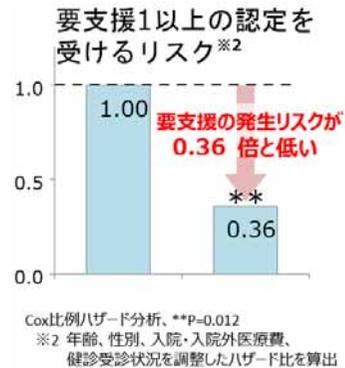


見附市が目指す将来像：住んでいるだけで健康で幸せになれる健幸都市の実現

地域活性化総合特区（H23～） 地域活性化プラットフォーム【モデルケース】（H26～） の成果

運動している人は・・・

- ・年間医療費で約10万円の抑制効果
- ・介護認定に陥るリスクが約3分の1

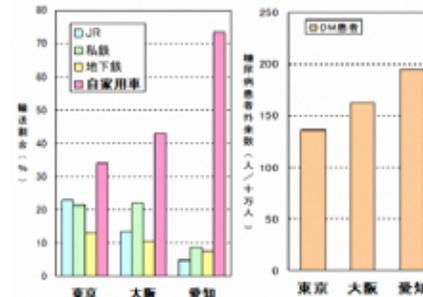


これまでの施策から明らかになった事実

車依存に陥るざるを得ない都市環境

- ・生活習慣病者の増加に一定の影響
- 施策を重ねても運動習慣のある住民は伸び悩む
- ・健康無関心層が65%存在

東京・大阪・愛知における自家用車の利用と糖尿病患者数
(為本 浩史：肥満と糖尿病、#：923、2009より引用)



調査対象：30～70歳の市民 n=733
運動習慣：週5回以上、10分以上のウォーキング又は運動を実施

	運動未実施 (計64.8%)				運動実施 タイプ5 (35.2%)
	タイプ1 (18.2%)	タイプ2 (27.1%)	タイプ3 (8.0%)	タイプ4 (11.5%)	
運動の意思	意思なし	意思なし	意思あり	意思あり	
美容維持	関心なし	関心あり	関心なし	関心あり	

年齢・性別・貧富に関係なく、
誰一人取り残すことなく、
必要な運動量を確保するためには・・・

「歩く」ことに
着目！

「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティ



自治体SDGsモデル事業：「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティの深化と定着

経済面の取組
「出かけたくなる場所の創出」

- ① まちなか賑わい創出事業 ⇒ 賑わい創出、集客力の強化
- ② 総合型地域スポーツクラブ事業 ⇒ 健康増進【社会保障費の抑制】

社会面の取組
**「歩きたくなる、歩いてしまう
歩行環境の整備」**
「都市機能の集約、まちのコンパクト化」

- ① 車両誘導看板設置事業
- ② 健幸ウォーキングコース路面標示
⇒ 安全に歩ける環境整備
⇒ 健康寿命の延伸
- ③ 市民協働による植栽活動
- ④ みつけイングリッシュガーデンの管理運営
⇒ 歩きたくなる景観や空間の創出
- ⑤ 立地適正化計画策定事業
- ⑥ 空き家バンク、住み替え支援事業
⇒ 歩いて暮らせるライフスタイルの実現

**ボトルネックとなる課題を
解決、支援、補強**

三側面をつなぐ統合的取組

<個別事業分>

- ① 公共交通におけるグリーンスローモビリティの活用検討
- ② 商店街の空き店舗活用支援事業
- ③ ウェルネスタウンの拠点化整備
- ④ 長野・新潟ガーデン街道の設立
- ⑤ SIBによるヘルスケアサービス事業

<全体マネジメント・普及啓発分>

- ⑥ 学校教育を通じた子どもたちへのSDGs教育
- ⑦ 「歩いて暮らせるまちづくり」の形成による持続可能な健幸都市の発信

環境面の取組
**「過度な自家用車依存から脱却するための
公共交通の整備」**
「自然災害への備え」

- ① コミュニティバス事業
- ② コミュニティバスの増車
- ③ デマンド型乗り合いタクシー運行事業
- ④ バス停サイン更新事業
⇒ 利便性の高い公共交通の確保
- ⑤ 防災訓練の実施
- ⑥ 自主防災組織補助事業
- ⑦ 防災スクール事業
- ⑧ ハザードマップ改訂版の作成
⇒ 安全安心に生活できる環境整備

三側面をつなぐ統合的取組【補助対象事業 1】

⑥ 学校教育を通じた子どもたちへのSDG s 教育【全体マネジメント・普及啓発分】

SDG s が身近な自分事であることを理解してもらうため、学習カリキュラムに取り込み、**子どものうちからSDG s を学ぶ機会を提供**する。子どもから保護者、そして地域住民へとSDG s が浸透していくことで、一般化し市民へと**SDG s が根付いていく仕組み**を構築する。

<地域住民等>

- ・教育コーディネーター（保護者、地域住民）
- ・わくわく体験塾（企業、ボランティア団体）



学校に関わった人
701人(H17)
→8,193人(H30)

【教育コーディネーター】学校と家庭、地域が総がかりで子どもを育てる活動



わくわく体験塾参加者（※）
3,941人(H30)

【わくわく体験塾】市内の企業やボランティア団体等の協力を得て、夏休みに学年や学校の垣根を越えて様々な体験をする活動

<子供たちが学習している事項>

- 住まいるハンドブック
(住宅の温熱環境と省エネ・健康)
- グリーンカーテンの取り組み
- EMボカシを活用した給食残さ処分
- 校庭の芝生化
- 太陽光発電の学習
- 花や緑の植栽活動 などなど

<協力機関等>

- ・健康省エネ国民会議「住まいるハンドブック」
- ・長岡技術科学大学「SDG s 教育ゲーム」



住まいるハンドブックを活用した学習風景



長岡技術科学大学の学生が開発した親子向けのSDGs教育ゲーム（サイエンスアゴラ賞受賞）を楽しむ様子

↑ 地域への浸透

未来を担う子どもたちが学ぶことで、根本からSDG s を普及させていく
SDG s を意識した教育プログラムに再構築

共有・連携
水平展開

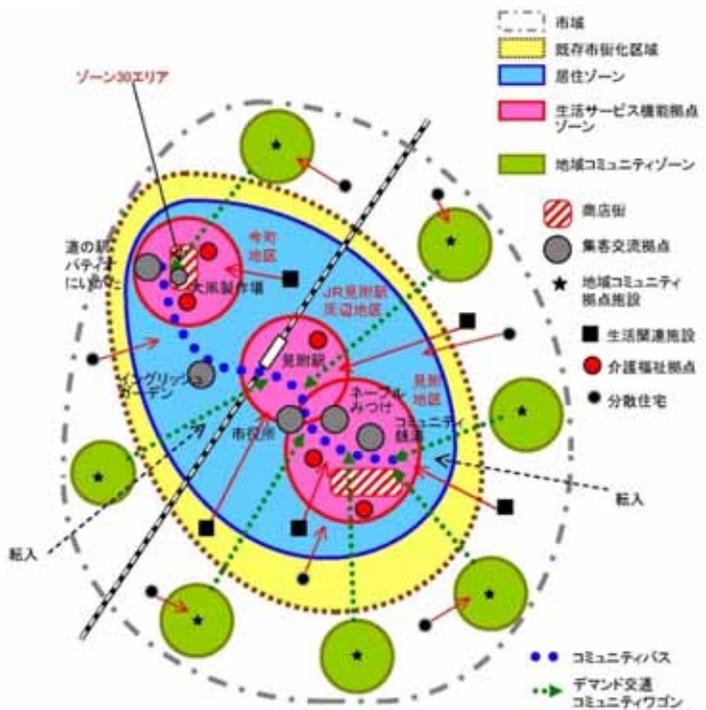
- ・SWC首長研究会加入自治体 (38都道府県81自治体)
- ・見附市への行政視察 (H30:136件、1114人)

三側面をつなぐ統合的取組【補助対象事業2】

①公共交通におけるグリーンスローモビリティの活用検討【個別事業分】

ウォークアブルシティを**実現するためのインフラ整備**として、深刻な運転手不足を解消し公共交通を充実化させる手法の1つとして、**グリーンスローモビリティ**の導入可能性調査（FS調査）を実施し、**持続可能な公共交通網を構築**する。

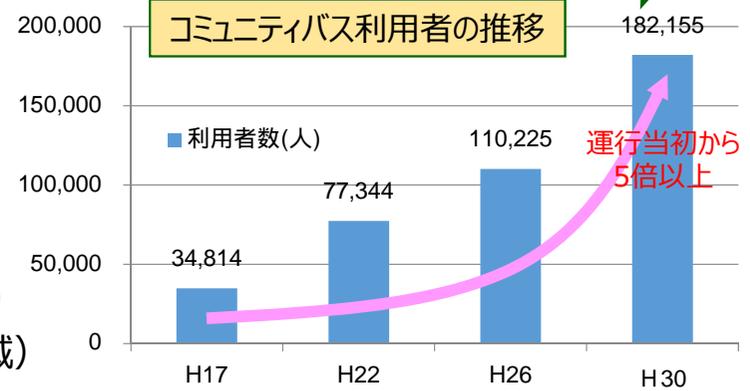
収支率
25.7%



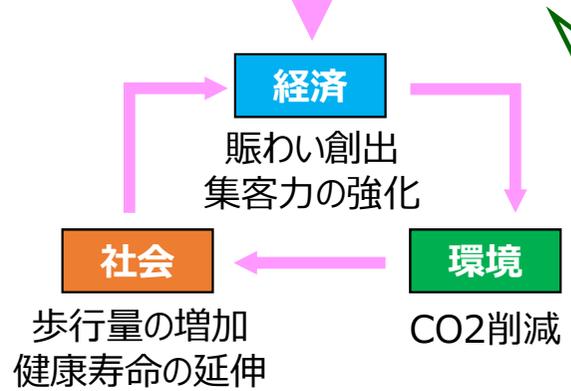
公共交通の整備で生活の足を確保

中心市街地 ⇔ 既存集落・周辺地域
居住エリア ⇔ 各種サービス施設を連結

- ・路線バス（広域 6路線）
- ・コミュニティバス（市街地 61便/日）
- ・デマンドタクシー（郊外 5地域12便/日）
- ・コミュニティワゴン（地域コミュニティ 11地域）



公共交通 = 経済、社会、環境の三側面を下支え



<参考事例：長岡市山古志地域>

- ・高齢化と人口減少が進む中山間地の交通や物流を確保するための実証実験
- ・電動カートを活用
- ・定員6名
- ・速度10km/h程度



三側面をつなぐ統合的取組【補助対象事業3】

③ ウェルネスタウンの拠点化整備【個別事業分】

ウェルネスタウンは2030年のあるべき姿である「**健幸都市**」を具現化、見える化したモデル地区であり、市内唯一のマンホールトイレ機能を有していることを踏まえ、エリア内に**防災倉庫を整備して自然災害への強靱性**を高め、**見附市のまちづくりのシンボル**として拠点化を図る。



ウェルネスタウンのコンセプト

- ① 住んで「健幸」
→健康被害リスクの低減
- ② 歩いて「健幸」
→歩行量の増加、健康寿命の延伸
- ③ 交流で「健幸」
→賑わい創出、交流人口増

<研究中：仮設住宅の再利用>



・福島県で仮設住宅の再利用が広がる
・環境面の取組の一環として活用を研究中

防災倉庫にリノベ

これまでの見附市の取り組み

狭義の健康施策を都市全体の施策へと範囲を広げ、「健幸」という概念をまちづくりの中核として施策を展開

見附市の挑戦

「医療費や介護給付費の増大」を克服するべく、**日本の先行事例**として「健幸都市」に挑戦

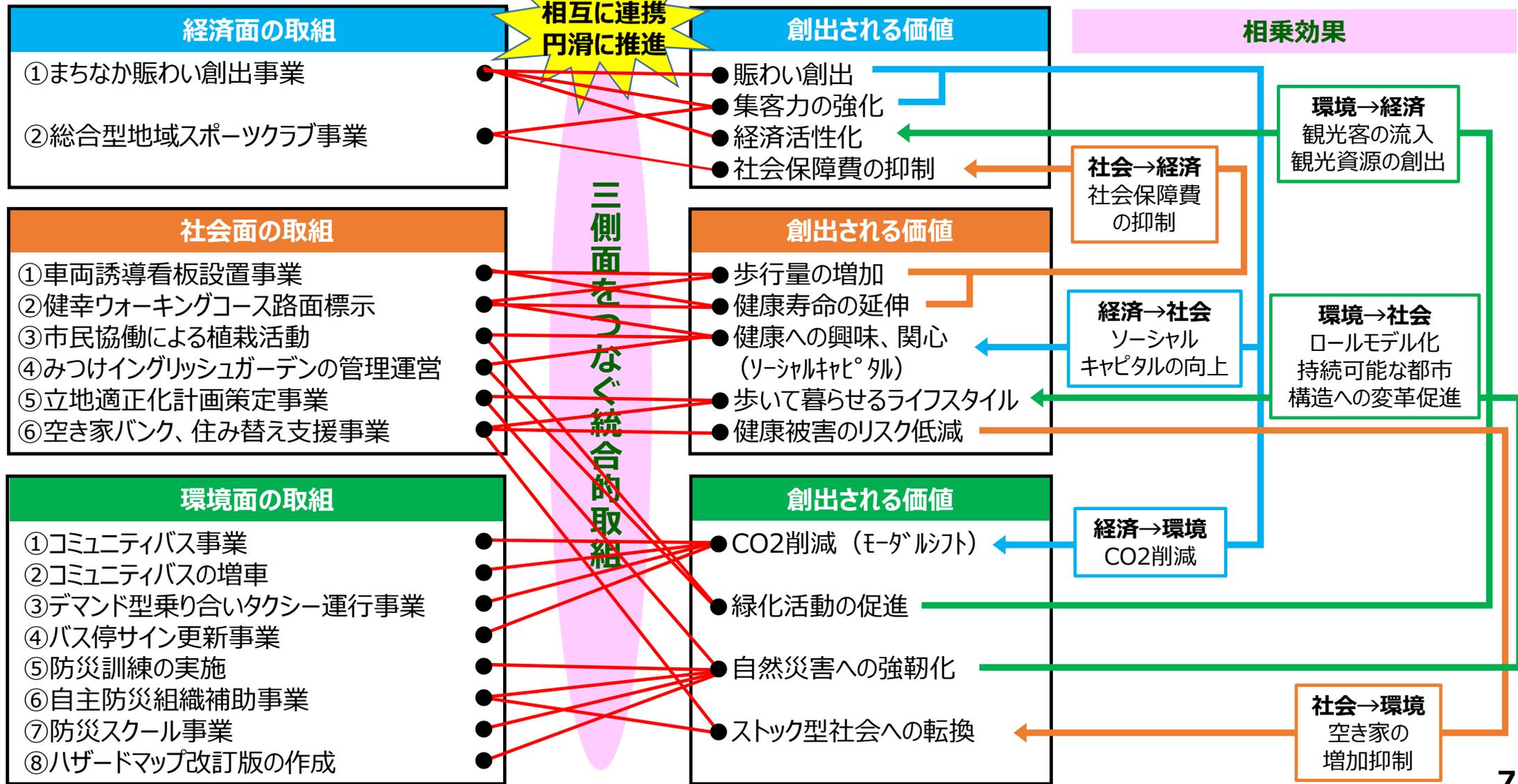
見附市のまちづくりのシンボル

「健幸都市」を具現化、見える化 **ウェルネスタウン**
(目標: **ゴール3** が体感できる日本のモデル地区)

市民、地域コミュニティ
行政、不動産業者
SWC首長研究会
視察団体 等々

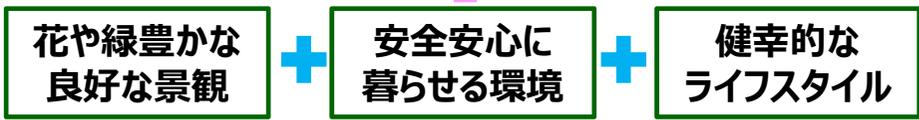
見附市の発信力を用いて、国内外へ広くPR
ゴール3の体感を通じて、**SDGsの更なる普及へ**

相乗効果



持続可能な都市へ 定住先として選ばれるまち

第3ステップ



- ・更なる集客力の強化
- ・継続的な民間投資（新規出店）

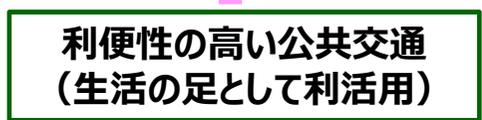
第2ステップ



好循環

第1ステップ

- ・利用者の増加 ⇒ 運賃収入の増
- ・車内の有料広告収入 ⇒ 2次的な稼ぐ力の強化



<ポイント>
●エビデンスを基とした事業評価、効果検証
●官と民が互いに知恵を絞り、課題の把握と分析に注力

・将来的には商圏としての魅力が定着し、**公的支援がなくとも継続的な民間投資**を呼び込む
・生活環境インフラは市が必要財源を確保しながら実施するも、過度な公的資金投入を控え、**市民や民間との協働により整備**

・採算性を確認しながら、**出店費用の財政支援**を実施し新規出店を誘致
・商圏としての魅力を向上して、**更なる民間投資**に繋がる**好循環**を創出

・稼ぐ力の強化により**収支率を改善**
・公的資金に**あまり依存しない**、持続可能な**公共交通**を形成

モデル事業の普及展開性

<これまでの実績>

- まちづくりへの評価 「第1回コンパクトシティ大賞」最高賞受賞（国土交通大臣表彰）H29.6月
「第5回プラチナ大賞」最高賞受賞（総務大臣表彰）H29.10月
「第3回先進的まちづくりシティコンペ」最高賞受賞（国土交通大臣表彰）H31.2月
年間約**120件**、約**1000人**が来訪（H30は過去最高を記録。**136件**、**1114人**）
- 見附市への視察 毎年、市内全域の町内会長へまちづくりの進捗状況を説明し、**市民と市が目指すイメージを共有**
市内全11地域に地域コミュニティ組織を組織。**官民協働でまちづくりを推進する体制を構築**
- 市民との協働
- SWC首長研究会 H21発足当時から会長を務める。**38都道府県81自治体**が加入（H31.4月現在）

